

並外れた音楽的才能を、惜しみなく世界に注いだ

# フェリックス・ メンデルスゾーン・ バルトルディ

Felix Mendelssohn-Bartholdy (1809–1847)

神童として早くから才能をあらわし、交響曲やヴァイオリン協奏曲、無言歌など、数多の美しい名曲を生んだメンデルスゾーン。その活躍は作曲だけにとどまらない。20歳にしてバッハの《マタイ受難曲》を指揮して演奏会を大成

功へと導き、当時忘れられかけていたバッハの復興へとつなげた。26歳でライプツヒヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の楽長に就任すると、過去の名曲の演奏機会を増やすなど、現代のクラシック音楽界にもつながる数々の偉業を成し遂げた。34歳にはライプツヒ音楽院の創設を実現するも、38歳で早世した。

C  
2024, MAY  
[第2011回]



## 宗教的アイデンティティ

父方の祖父はユダヤ人の高名な哲学者だったが、当時はユダヤ人への迫害も強く、父の代でユダヤ教からキリスト教へと改宗、メンデルスゾーンも7歳の時に洗礼を受けている。しかし、世間からの風当たりは変わらなかったという。メンデルスゾーンは《宗教改革》のほかにオラトリオ《聖パウロ》も作曲しているが、同じくユダヤ人でイエスを支えたキリスト教の使徒、聖パウロへの共感もあったにちがいない。

聖パウロに扮するメンデルスゾーンさま  
神々しきは永遠に  
イラストレーション: ©IKE